

市民の皆様へ



近年、異常気象などにより日本各地で局地的な集中豪雨の災害が発生しており、今後も頻発することが危惧されています。

本市においても、平成20年8月末豪雨では、お二人の尊い命が失われ、3千棟を超える家屋が浸水により被災するなど、まさに未曾有の被害を受けました。これを契機に危機管理体制の見直しをはじめ、河川改修や雨水ポンプ場の整備、浸水警報装置の設置や防災緊急メールの配信による災害情報の提供など、より一層の防災体制の充実を進めてきました。しかし、自然災害の発生自体を防ぐことはできません。大規模な災害が発生した場合、被害を最小限にとどめる「減災」には、市民の皆様一人ひとりの自助の行動と、お互いを助け合う共助の行動が非常に重要となります。災害に強いまちづくりには、地域に即した実効力のある防災体制を整えることが急務であり、市民、地域、行政が連携して対応することが必要です。

このガイドブックは、河川のはん濫や住宅地の浸水など各地域における水害特性をもとに、より安全と考えられる避難方法を「逃げどきマップ」としてまとめたものです。作成にあたっては、東日本大震災で津波被害を受けた釜石市の小中学校で防災教育を行い「釜石の奇跡」で知られる群馬大学広域首都圏防災研究センターの片田敏孝教授の監修を受けています。日ごろの水害への備えにお役立ていただければ幸いです。

岡崎市長 内田 康 宏



もくじ

- 01 市民の皆様へ
- 02 これだけはおさえてほしい 6 箇条
- 03 災害は忘れぬうちにやってくる
- 04 雨の降り方が変わりつつある

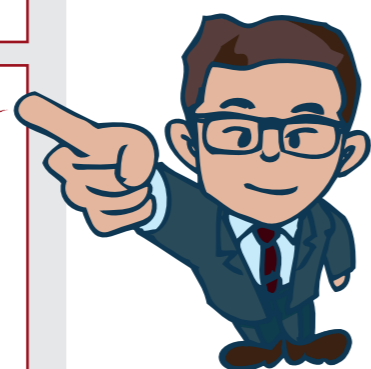
06 気づきマップ

Point

07 逃げどきマップ

Point

- 07 逃げどきマップとは？
- 09 内水はん濫したら
- 11 中小河川がはん濫したら・矢作川がはん濫したら
 - 11 新香山・岩津中学校区
 - 13 矢作北・北中学校区
 - 15 城北・葵・甲山・竜海中学校区
 - 17 矢作中学校区
 - 19 六ツ美北・南中学校区
 - 21 六ツ美・福岡中学校区
 - 23 美川・河合・竜南中学校区
- 25 逃げどきマップの判定フロー



- 27 自宅外に避難する際の心得
- 29 自宅に滞在する際の心得
- 31 情報収集の重要性
- 33 情報の入手方法
- 35 釜石の奇跡
- 36 いざというとき頼りになるのは地域のちから

37 浸水深マップ

- 37 矢作川がはん濫したら
- 38 乙川がはん濫したら
- 39 乙川がはん濫したら（上流部）
- 40 矢作古川、広田川、鹿乗川がはん濫したら
- 41 浸水実績図

第 1 条

「水害が起きるかもしれない」という前提で行動する

「災害は忘れたころにやってくる」とよく言われますが、最近では、「災害は忘れぬうちにやってくる」と言えるほど雨の降り方が変わりつつあります。

第 2 条

考えられる状況と地域の特性から水害をイメージする

水害の現場では、「まさかここまで水がくるとは思わなかった…」という言葉をよく聞きます。雨が降りだしてから、その先に起こるかもしれない水害の状況は、地域の特性によって様々です。

気づきマップ→【 06 ページ】

第 3 条

避難するか？とどまるか？命を優先し、最善をつくす

浸水が始まる前に安全な避難場所に避難することは重要なことですが、逃げ遅れたにもかかわらず、浸水の中を無理に避難することは非常に危険です。状況に応じて適切に対応することが大切です。

第 4 条

自分の身は自分で守る

災害による犠牲者を無くすには、「いざというとき、最終的に自分の身を守るのは自分自身である」という基本認識を持つことが重要です。

逃げどきマップ→【 07 ～ 26 ページ】

第 5 条

情報は自分でとりにいく

水害時はいち早く情報を得ることが大切です。テレビ・ラジオ・インターネット・となり近所の声かけなど、様々な方法で情報が発信されますので、自ら情報に注意するように心がけましょう。

第 6 条

想定にとらわれない

本ガイドブック内の各マップでは、ある一定の条件やシナリオを想定して作成されています。実際に発生する水害は、想定どおりになる保証は全くありません。相手は自然で、想定以上のこともあり得ることを理解しましょう。



必ず市役所指定の避難所へ避難しなければならないのでしょうか？



必ずしもその必要はありません。「自宅」をはじめ、「親戚宅」・「知人宅」・「職場」なども避難先の選択肢となり得ますので、いざというときの避難先やそこまでのルート・時間などを日ごろから決めておくことが重要です。

逃げどきマップ→【 07 ～ 26 ページ】



水害時に勤務先や外出先から帰宅する際、何か注意すべきことはありますか？



鉄道や道路が多く箇所で通行不能となる可能性がありますので、早めの行動が重要です。また、場合によっては、無理に帰宅するよりも、勤務先や外出先にとどまる方が安全なこともあります。

逃げどきマップ→【 07 ～ 26 ページ】



避難勧告などが発表されるのを待ってから避難したほうがよいのでしょうか？



暴風雨の状況下では「避難情報（避難準備情報、避難勧告など）の発表に気づかなかつた」といった事態も珍しくありません。雨や河川の状況に応じて、早い段階で自主的に判断することも重要です。

情報収集の重要性→【 31 ページ】
地域ごとの注意すべき情報→【 32 ページ】



自宅外へ避難するとき、何に注意すべきでしょうか？



浸水の中を避難することは危険です。自宅外へ避難する場合は、浸水が始まる前の早めの段階に行動しましょう。

自宅外に避難する際の心得→【 27 ～ 28 ページ】



アパート・マンションの高層階に住んでいるので自宅外へは避難しないつもりですが、何か備えをしておいた方がよいのでしょうか？



自宅の居住スペースが浸水しなくても、電気・ガス・水道などのライフラインが停止したり、トイレやエレベーターが使用できなくなるなどの支障が考えられます。

自宅に滞在する際の心得→【 29 ～ 30 ページ】



自力での避難が困難な人がいて、すぐに避難ができません。どうしたらよいのでしょうか？



避難には多くの時間を要する場合が多く、より早めの行動が大切です。いざというときの対応について、日ごろから家族や近所の方と相談するなど、互いに声を掛け合う地域コミュニティづくりが大切です。

いざというとき頼りになるのは地域のちから→【 36 ページ】